



## 東京部会(第139回)記録

日時: 2024年4月6日(土) 15:00 - 17:00

場所: 慶応義塾大学三田キャンパス東館オープンラボ

参加者: 会場 13名、zoom18名、計名 31名

(1) 金子幹夫先生(神奈川県立三浦初声高等学校)から「高等学校「政治・経済」における経済的分野のカリキュラム構成に関する一考察—経済的分野の授業はどのような順序で構成されるのか—」の報告があった。報告内容は以下の通りである。

きっかけは「歴史総合」を担当したことで、教科書の記述の順序を考え直さざるを得なかった。ここから公民の順序性を再考しはじめた。本日の報告は三つで、

①なぜこの研究なのか。科目名は「政治・経済」であって、なぜ「経済・政治」ではないのか。

②生徒に学習のストーリーを感じさせるためにはどうするか。

③毎時「なぜ今日この勉強する必要があるのか」と同じ導入、問いで授業を展開しているのはなぜか。である。

①に関しては、ルールが整っていないところで「交換」は活発に進むとは思えないとする。例えば、政治→経済で「市場の失敗」、「財政」で政治的分野を振り返るといことで生徒に迫る。

②③に関しては、生徒は人生で失敗しないため、社会を生き抜く力、具体的には政策選択をする力、自分の人生を決められる力をつけるための学習であり、そのためのストーリーとする。

ストーリー作りのために、教科書の経済の単元配列が必要になるのではという仮説をたて、生徒への予備調査を踏まえて再構成したという。この際、各単元名にある〇〇と〇〇の「と」の見直しも同時におこなったという。再構成された単元構成は以下のとおり。項目の数字は使用教科書の数字である。

- 1 経済活動と経済主体
- 8 企業の活動と役割
- 3 国民経済と景気変動
- 5-1 金融のしくみとはたらき
- 9 労働問題と労働環境の変化
- 2-1 市場経済の機能と限界
- 4 物価とその変動
- 2-2 市場経済の機能と限界
- 6 財政のしくみと働き
- 5-2 金融のしくみとはたらき
- 7 日本経済のしくみ
- 10 社会保障制度の充実
- 11 農業と食料問題

まとめとして、各単元の教材開発は個別にはすすんでいるが、肝心なのは生徒をその気にさせること。そのためには単元と単元をつなぐストーリーが求められるが、教師が創るストーリーには正解はなく、生徒の状況や理解状況を随時見る必要があること。生徒の理解状況を知るには、毎時間、どうしてここを勉強する必要があるかを問うことが有効であること。これらを話して報告とした。



質疑では、現実を先に、仕組みはあとという話があったが、大学生の場合、仕組みを教えることで現実と違うという課題発見があるが、順序はそれでよいか、という質問に対して、仕組みと課題を分けたのは、現実を紹介するなかで生きた人間を出さないと食いつかないという生徒の現実からそうしたという回答があった。

また、再編のなかで、社会保障、農業など生徒にリアルに関わる問題をどう処理したか、グローバル経済はどうかという質問に対しては、社会保障はぎりぎり入り口まで教え、農業は最後の切り札として時々の項目のなかで提示した、グローバル経済では比較優位は教えたとの回答があった。

(2) 増田真裕花先生(目黒区立第七中学校)から「中学校における会計教育の実践」の報告があった。

これは、日本公認会計士協会と作成した教材を使った実践で、教科書では価格は需要と供給で決まると説明するが、経営者の立場から価格を設定する授業実践である。

1 時間目にどんなパンをいくらで売るか4人グループで検討し、発表準備をする。

2 時間目に自分の売るパンを3分でアピールして、買ってもらう、という二時間配当の授業である。

固定費用や材料費を踏まえて利益を計算するのが、この授業での会計教育の視点である。一番利益が出たグループが勝ちというゲーム性があり、生徒はいきいきと授業に取り組んだ。同じリンゴやバターでも、高級ブランドや国産などの材料にバリエーションをもたせ、パン1つ購入につき1枚の金額を書く紙を用意して、計算しやすくするなどの工夫もある。他のパン屋の価格を調査する必要やどうしたら利益が出たのか、授業後も話す生徒の姿が見られたと報告された。

質疑では、売れなかった理由のグループでの考察やカルテルを結ぶとどうなるかなど授業後の展開について意見が出た。

篠原代表からは、企業が何をしているのかを自分事とできる点でよくできている授業で、市場における大企業の存在や、企業活動における雇用やコストカット、新製品の開発などの視点について助言があった。

先に報告した金子先生に対して、再構成した単元計画のどこにパン屋の授業が位置付くかとの質問があり、問いから問いへ単元をつなぐためには、働いている人がどのように働くのか、労働の後に入れるとの回答があった。

中学では企業の単元が想定される。高校でやる上では、利益だけでなく社会貢献を盛り込めることや、生徒がはじめは利益を出そうと考えて値段を決められなかったことに対して、活動を通して消費者ではなく、企業としての視点を学んだのではないかと議論が進んだ。

(3) 3月23日(土)に開催された春の経済教室について、杉田孝之先生(千葉県立津田沼高校)から総括報告があった。

春の経済教室に向けた準備面と運営面を、良かった点、課題面に分けた総括で、内容面については、講演者とのコンタクトの取り方、著作権問題を事前に克服しておく、パネルディスカッションでどんな発言、討論が展開されるか予め想定した準備が必要であることが報告された。そのうえでそれぞれが今後の経済教室を取り組む際の課題であるとの提起がされた。



経済教育ネットワーク  
Network for Economic Education



次回開催予定：6月22日(土) 15時00分～17時00分

場所：慶応義塾大学三田キャンパス東館オープンラボ

内容：授業実践の報告、夏休み経済教室に関連する事前検討他